＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571800115
法人名	財団法人　豊郷病院
事業所名	甲良町グループホーム　らくらく
訪問調査日	平成　20 年　10 月　23 日
評価確定日	平成　20 年　11 月　4 日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ滋賀福祉調査セン

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2571800115
法人名	財団法人 豊郷病院
事業所名	甲良町グループホーム らくらく
所在地	滋賀県犬上郡甲良町在士625番地 （電 話）0749-38-8182

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ 滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階
訪問調査日	平成20年10月23日

【情報提供票より】(20 年 10 月 10 日事業所記入)

（1）組織概要

開設年月日	平成 15年 3 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.1 人	

（2）建物概要

建物構造	（木造） 造り
	1 階建て0 1 階 ～ 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000 円		その他の経費（月額）	16,800 円
敷 金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	―
食材料費	朝食	― 円	昼食	― 円
	夕食	― 円	おやつ	― 円
	または1日当たり 1,200円			

（4）利用者の概要(10 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名		要介護2		5 名
要介護3	2 名		要介護4		1 名
要介護5	0 名		要支援2		0 名
年齢	平均	88.5 歳	最低	82 歳	最高 98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	（財） 豊郷病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

甲良町グループホームらくらくは官設民営で財団法人豊郷病院が運営している。ホームの庭は甲良西小学校のグラウンドと接して児童達の元気な姿を居ながらにして楽しめる。児童達との交流も盛んで、地域行事に利用者が招待されたりして地域との密着度も高い。認知症啓発のキャラバンメイト役を担っている。ホームの運営姿勢は利用者の喜怒哀楽の表出を大切にして気持ちを素直に伝えられて笑顔が増える事を誇りとしている。『自分が歳を取ったら‥自分の親を‥ここに世話になりたい。』を合言葉に職員はチームワーク良く毎日ケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価時、改善課題には、していなかった『家族交流会を更に家族会への発展を希望する』と記述していたが家族交流会として8月に実行し出席率も前回より格段アップ(6家族の出席)し交流会が定着しつつある現状からあえて家族会と変更せず、出席率向上の為の努力、工夫が見られる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員全員が自己評価に参画し会議で討議して改善課題を共有化し、質の向上に向けて優先順位と期間を定め具体的に行動に移している。今回も4項目の課題に取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）** 会議の構成は地域、行政はもとより、関連施設、医療連携関係者が含まれ討議内容も医療と健康管理や地域一体となっての防災、避難訓練更や地域に根ざした認知症啓発活動について等、多岐に亘りそれらを運営に反映させている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）** 利用者家族のホームへの訪問が活発でしかも家庭の収穫品の差し入れを頻繁に受ける。又すっかり行事化した、家族一緒の味噌作り等、そういう機会に話し合いを常に持ち相談事に対応している。家族交流会の内容を吟味して更に出席率の高い会の運営を期待する。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** ホームに対する地域の理解と関心は極めて高く支援、連携体制は万全である。地域の人達から季節の収穫品をさり気なく差し入れを受けたり、徘徊の利用者を見守って貰ったりしている。隣接小学校との交流も盛んに行われ、学童保育の児童達との行き来も活発である。地域に向けた認知症キャラバンメイトとしての活動やサポーターの研修等、地域交流をしている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「・・・地域交流を行い、社会的にひらかれたホームになるよう努める」と地域密着型サービスの理念が織り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い共有化を図りその実践には利用者への言葉掛け、態度、記録等をオリエンテーションで徹底して取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域の老人会に参加している。また地域の祭りや地蔵盆行事にも参加している。小学校からの慰問や福祉体験などの受け入れや利用者が作った雑巾を学校へ届けたりの交流も深い。地域のキャラバンメイトにも講師として参画している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が8月初旬から自己評価に参画して全員会議で取りまとめ、改善点を把握して具体的な改善行動を計画して取り組んでいる。運営推進会議に於いてもその内容を議題として諮っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2ヶ月毎に開催している。推進委員は地域、家族、利用者、行政、ホームの職員で構成している。委員のそれぞれの立場からの意見が出ていることから問題点の気づきが多い。それらの課題は職員会議で議論している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催される、行政（地域）主催の地域ケアネット会議に参加して地域の課題について討議や情報交換を行っている。一方、認知症の啓発活動、キャラバンメイト、サポーターの育成等、地域と行政機関とは事業所の力を活かして連携は強固である。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回季節毎のホーム便りとは別に家族通信（個々の家族宛に『・・月のご様子報告』）を毎月発行している。それらの用紙は書式化して報告事項の漏れがないようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口をホームの管理者、行政の保険福祉課など明記して利用契約時に説明している。またホーム玄関に意見箱を設置している。運営推進会議での利用者代表、家族代表などからの意見、家族懇親会での意見を聞き取る努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを抑える為に職員の異動や離職は極力出さないように押さえている。職員採用時でもはホーム職員からの紹介をベースに職場に適合する人物かの面接をしている。また職員が慣れるまでチーフの指導の下で仕事を行っている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝礼を行い、理念や自己評価の理解や研修会の報告など行っている。仕事を通じ職場内訓練をしている。地区グループホーム部会（11ホーム数）の研修会や毎月実施されるグループホーム間交換研修会に参加し職員の資質向上に努めている。向上心を保つ為の環境作り（伸び伸びをモットー）に努力している。		職能に応じて職員教育訓練計画を作成し年間計画としてキチッと位置づけ年次的に育成される体系を確立されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会で毎月行われる交流研修には毎回1人づつ参加している。彦愛犬地域のグループホーム全体会などの会合にも積極的に参加している。それらで学んだところは報告会で職員に報告し、取り入れている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の申し込み時と事前調査の時点で利用者、家族や利用予定者と充分面談し、不安感を少なくする為に更に体験利用の日を設けて初期の馴染みの関係を築く努力をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の多くが畑仕事や野菜作りに堪能で梅干作り、らっきょう漬け、漬物作り、調理等、郷土料理を教えられる事柄が多く支え合う関係が築かれている。家族からの差し入れの大豆で味噌作りを利用者、家族、職員が一緒に作り、毎年の楽しい恒例行事になっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や性格把握に努めている。職員が出勤した時、利用者全員に必ず声掛け挨拶をする事から始まる。そこから利用者の様子を把握する努力をしている。利用者の言葉や荒げた感情の吐き出しを無理に押さえる事はせずにそれらの言動から真意ををくみ取る様にしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、医療関係者の意見や指導を基に3か月の介護計画を作成し会議で職員の意見を組み入れまとめている。毎月2名ずつカンファレンスを実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月、利用者の生活状態を見て見直しの内容を把握して3ヶ月毎の定期見直しに反映している。健康状態急変などの時は都度、見直しを掛けている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。利用者の旧住まいの老人会参加や理美容院への送迎などをしている。かかりつけ医の受診を家族に代わって送迎する事がある。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の主治医は入居前のかかりつけ医を変更せずに全員利用している。ホームの看護師はかかりつけ医と連携しながら利用者のケアに反映させている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に終末期ケア対応指針を家族と話し合い、契約書を交わしている。看護師を通じ地域医師との連携を密にしてその医師の判断で終末期ケア対応指針がスタートする体制が確立している。その事を職員全て共有している。過去（2例）の看取りに利用者からも当ホームでの終末期ケアを望む者がいる。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりの誇りやプライバシーを大切にして呼称に配慮した言葉掛けや、場所を変えたりして対応している。行政の人権学習に参加し個人情報の取り扱いを慎重にし、情報書類は事務室で保管している。受け入れボランティア等、訪問者に対して個人情報の扱いに注意を喚起している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の調理や食後の食器洗いや洗濯物の始末等の日課のあとは自由に生活している。ある利用者が1日に3回自主的に仏壇に読経をすれば他の利用者も一緒になって合唱するのが日課となっている。散歩は買い物を一緒に行ったりデイサービス利用者の訪問者と歓談したり、利用者個々の過ごし方の支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで取れる野菜や地域の食材の差し入れを利用者と相談して調理を行うことが多い。季節を感じる料理の取り入れや誕生会など変化を持たす配慮をしている。外食も月に1度は行っている。天気が良いときには弁当を皆でつくって出かけたりホームの庭でバーベキューを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日している。浴室で会話や歌を楽しむなどの配慮と時にはしょうぶ湯やくず湯を楽しんでいる。重度の利用者に対しては併設のデイサービスの浴室を利用している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出、畑仕事、仏壇の手入れと日に3度の読経、洗濯物干し、片付け、ホーム敷地内のお地蔵さんの世話、児童クラブへ出向いての昔話の語り聞かせ等、生活歴を活かした役割を発揮して利用者の楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者はスーパーへ買い物に同行したり個々の買い物や外食の為の外出や近くの花見（桜やコスモスなど）等も日曜日に出かける事が多い。利用者の元の住まいでの老人会参加への送迎等の外出機会は多い。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関にはセンサーを設置しリビングに人の出入りを知らせている。利用者の出入りによるセンサー作動時は職員が一緒に出掛ける。地域での理解が深まり,近隣の人達の利用者に対する見守りで支えられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会が行う防災訓練にはホームも参画している。夜間の職員が1人体制の時を想定して、地域の人々に支援を受けて避難訓練することも計画している。救急救命訓練やAED操作の訓練も11月13日に計画している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好やアレルギーなどを把握しながらバランスを取り咀嚼力なども考慮しながらと食事作りをしている。重度の利用者には個別の献立で対応している。水分補給についてはお茶だけではなく、健康飲料水なども折り込みながら適量補給に配慮している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂、居間はワンルームとなりその一角に和室も配置され仏壇が置いてある。天井は吹き抜けとなり開放感を与えている。居間の前庭の先は小学校の運動場があり子供達の元気な姿や歓声は心和ませる環境である。玄関、廊下など適切な広さがある配置となって入る。5ヶ所にトイレを設置し使い勝手は良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、馴染みの家具、調度品が持ち込まれており、本人の住み慣れた環境の居室になっている。仏壇を供えた居室も有り、各居室にはその人となりの趣味、趣向の絵画、手芸品、大相撲写真、短歌、スナップ写真等が貼られ、一方つるし柿を軒先に干し、自宅の居室を醸し出している。		